

---

# 女神しか知らない恋の道!??

綾鷹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

女神しか知らない恋の道！??

### 【Nコード】

N5478Z

### 【作者名】

綾鷹

### 【あらすじ】

平凡女子の天川奏と不良男子？の柳澤零が描く恋愛＋SFの学園ストーリーです

## 第一話 小さな出会い

キンコーンカンコーン

鐘の音が学校全体に響く

「今日は転校生が来てまーす」

加藤先生は勢いよくドアを開けながら言った

先生が黒板に転校生の名前を書いている読んでみると柳澤零やなぎさわれいと書いている

「自己紹介よろっ」

「神道高校かみどうから来た愛沢零……です」

神道高校？聞いたことがある……

「神道高校ってあのヤバいくらい有名な？」

教室がザワザワしている

「静かに、零君は窓側の一番後ろの席ね！..」

うそ……私の隣じゃん殺されるって

さっき思い出したが神道高校は生徒のほとんどが不良で有名だった

「おまえ名前は？」

いきなり名前を聞かれた初対面なのにその言い方あり？

「あ……天川あまかわ奏かなでで……です」

「あっそ」

聞いてきたのそっちだろ あっそ って何だ

零は席に座ると授業の用意をしている不良じゃないのか??

一時間目は数学だった

「おいっ教科書を忘れたから」と言い手を出す

えっ私に言ったの……そりゃあ隣の席だしね……怖いよお

私は不良男子（零）に向かって目を合わせずに教科書を渡した

「ありがとう」

不良に感謝されたぞ……おいってかこいつ本当に不良か??

「零ってやつ不良なの??かなっち」

放課後になると静川しずかわ結花ゆづかが質問してきた

「知らないよ そんなの全く話してないし……」

「ええ〜十回は話してたくせに〜」

確かに十回は話したっていつか話かけられたからしかたなく・・・

「まあいいや 帰ろっか」

朝 学校へ行くときは雨が降っていたが今は晴れていた

「ねえかなつち 神道高校ってお化けがでるらしいよ」

「ええ〜お化けもいて不良もいるって超ヤバいじゃん」

今日は私にとっては大きい出来事だったが世にとっては小さな出来事でしかなかっただろう・・・

## 第二話 女神に会っちゃった!??

今日は晴れだった不良男子（零）に出会ってから晴れの日が続いてる

いつものように学校へ行く用意をしていた

異変に気づいたのは顔を洗つてるときだった

「その娘……ここはどこじゃ、冥界めいかいか天界てんかいか??」

私はビックリして顔をあげると鏡には私の顔に似ている人がうつっている

「だ……誰……家には私しかいないのに……」

私は後ろを向く……誰もいない　ていうか冥界って何?天界って何

「わらわはアポロンじゃ　お主は……」

アポロン?冥界?天界?何それ?????

「わ……私は天川奏……」

「奏??もしかここは人間界にんげんかいか??」

はあ??何だこいつ人間界?人間が住んでるのはあたりまえだろ

「人間じゃなかったらお前は何者なの!!」

「わらわは女神じゃ 天界の者じゃ」

天界の女神??アポロン??あれ??ギリシャ神話で似たような事を聞いたことがあるぞ

私はふと時計を見る7時35分

「ヤバッ、学校に遅れちゃう・・・」

アポロンだかも気になるが今は学校へ行かないと・・・

キンコンカンコーン

学校の鐘の音が聞こえる

私は急いで階段を駆けている

2年生の教室は3階なので、もう息がハアハアしている

2年B組の教室の前に来るといったん止まって息を整えた

「遅れてすみません!!」

教室中に私の声が響きわたった

教室を見ると誰もいないように見えたがよく見ると一人の男子が学校の用意をしている

「よお奏お前も遅れたのか」

声でわかった不良男子の零だ

「しかたないじゃん！！いろいろあったんだから」

「女神に会ったとか??」

え・・・何で知ってんの??家には誰もいなかったし・・・

「なんでわかつ・・・そ・・・そんなことあるはずないじゃん・・・

」

「やっぱお前 嘘つけないんだな」

へ???もう意味わかんないよ・・・

「お前には女神が見えるんだろ」

???まだ一人しか見たことないもん!

「まだ一人しか・・・皆みえるんじゃないの??」

また口がすべった・・・

「皆みえるわけじゃねえよ」

「何でそういふ事してんのよ」

ああ言っちゃった・・・



「俺は小さいときから神や女神が見えるから」

### 第三話 零の秘密

「小さいころから神や女神を見ている!???」

なにを言ってるんだ・・・実際に女神とか神とか・・・まあ見ちゃったから信じるしかないか

「どうして零は神とか女神とか見れるの?」

「俺は普通の人間じゃないから」

はあ????普通の人間じゃない???だったらなんだって言うんだよ

「どんなふうに普通じゃないの??」

「まあ簡単に言うと天界で生まれたから」

天界で生まれた?ただそれだけで神や女神が見れるのか!???

「俺は天界住人のアイリスと人間界の人間の間から生まれてきたんだ!!!」

アイリス??なんだそりゃ??

「アイリスって??」

「アイリスは虹の女神だ」

虹??そういえば零と出会ってから毎日のように晴れている

・  
しかも雨が降ったわけでもないのに虹が毎日のように出ている・

「じゃあ最近毎日のように晴れて虹が出ているのは、そのせいなの  
!?!」

「まあそうだけど・・・ていうか一時間目の体育ってさぼっていい  
の?!?」

「あっ!!忘れてた!!」

こうしてこの話は終わりになり零の秘密も少し分かったので体育  
の用意をはじめた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5478z/>

---

女神しか知らない恋の道!??

2011年12月22日23時51分発行